

令和 5 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を養い、友愛の中に自己を実現し、社会的に自立する明るくたくましい人間を育成する。

〈校訓〉 ○仲よく楽しく学びましょう ○恐れずくじけず励みましょう ○明るく正しく生きましょう

2 学校の特徴

- ・聴覚障害のある幼児児童生徒と軽度の知的障害のある高等部の生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立して社会参加することや、共に学び、共に生活して、地域社会で活躍することを目指して学んでいる。
- ・聴覚障害のある生徒を対象とした、幼稚部、小学部、中学部、高等部、高等部専攻科があり、幼稚部には0歳、1歳、2歳児のための乳幼児教室がある。また、軽度知的障害のある生徒を対象とした、高等部に福祉・サービス科を設置している。
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行っている。
- ・コミュニケーション能力を養い、社会性や望ましい人間関係を育てるために、それぞれの学部が地元の保育園や学校と交流活動を行っている。
- ・聴覚障害教育センターとして、幼稚園・保育園・こども園、小・中・高等学校、特別支援学校に在籍する聴覚障害児及び卒業生を含む成人聴覚障害者を支援している。
- ・中学部・高等部の生徒全員が卓球部に所属し、北陸地区聾学校体育連盟・中学校体育連盟・高等学校体育連盟主催の各大会に参加している。

3 学校の現状と課題

ア 現状

- ・聴覚口話法を基本とし、個々の実態に応じた有効なコミュニケーション手段（手話、指文字、筆談等）を用いて、コミュニケーション能力の育成を図っている。
- ・医療体制の充実による障害の早期発見や地域の学校への進学等により、幼児児童生徒数が減少し、一人学級、少人数学級が多く、集団による学習活動が難しくなっている。
- ・障害の重度・重複化、多様化により、幼児児童生徒の個々の教育的ニーズに応じた教員の指導力の向上が求められる。
- ・聴覚障害生徒の高等部卒業後の進路選択として、就職だけでなく専攻科や大学への進学希望者が増えてきている。軽度知的障害生徒の就労支援を含め多様な進路希望に対応するために、個々に応じた進路指導の充実が求められる。
- ・医療的ケアの児童生徒が在籍しており、指導医、主治医、保護者、担任、養護教諭、看護職員等が連携を密にし、安全な医療的ケアの実施に努めている。
- ・聴覚障害教育センターとして、地域の聴覚障害幼児児童生徒が在籍する学校への支援が求められており、聴覚障害教育における専門性の維持・向上が必要である。
- ・防災や感染症予防など、緊急時における校内の体制づくりに努め、危機管理に対する対応力を強化する必要がある。
- ・成人年齢が18歳に引き下げられたことにより、学んだ知識・技術の活用だけでなく、情報の取捨選択や判断力が求められる。また豊かな人間関係の構築や、自己肯定感を高め自ら行動する力も必要となる。

イ 課題

- ・生徒が自分の役割に気付き、主体的に取り組むための指導・支援の在り方
- ・保護者のニーズに応じた情報提供

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画		
1	学習活動	教育課程 (教務部)	目標	○効果的な指導計画の作成・活用・評価のために、個別の教育支援計画、個別の指導計画、成績関係書類等の関連を整理したり、校務支援システムを活用したりして、作成に取り組む。
			計画	・法令等の根拠を参照しながら進める。 ・他校等から情報を収集したり、各学部と意見交換し合意形成したりしながら様式や作業手順の検討を行う。 ・研修等を参考にしながら校務支援システムを活用できるよう検討し、準備する。
		教科指導 (幼稚部)	目標	○自分の思いを表現する力を高め、主体的に活動に取り組むことができる幼児を育てる支援の在り方を探る
			計画	・幼児が自分の思いを表現する力について実態把握し目標を設定する。 ・自分の思いを表現したくなる場面設定、表現する力を高めるための支援について教員間で検討、共通理解をして実践を積み重ねる。
		教科指導 (小学部)	目標	○学び合い活動を通して伝え合う力を高め、主体的に行動できる児童を育てる支援の在り方を探る。
			計画	・小学部における「柔軟かつたくましく対応できる」姿や重点を置くキャリア教育の項目、児童の実態と目標について共通理解を図る。 ・学び合い活動の場を設定し、授業研究や事例研究を通して児童が思いを伝え合うための支援を検討し、共通理解する。
		教科指導 (中学部)	目標	○生徒が自分の役割に気付き <u>主体的に取り組むことができるための指導・支援の在り方を探る。</u>
			計画	・各行事に主体的に取り組もうとする意欲を高めるために、自分の役割を確認し目標設定や振り返りの機会をもち、 <u>目標達成までの取組の過程から自己の成長を実感できるように、キャリア・パスポートを活用する。</u> ・生徒が肯定的な自己理解ができるように、 <u>教師の言葉掛けや場面設定はどうあればよいか教員間で共通理解を図る。</u>
重点1	教科指導 (高等部)	目標	○生徒が自己理解を深め、自分らしく主体的に生きるための支援の在り方を探る。	
		計画	・キャリア教育の観点である「自己理解・自己管理」「人間関係形成・社会形成能力」等に関する力を高められるよう支援方法等を検討し、支援を行う。 ・聴覚障害グループ、知的障害グループに分かれて、生徒の実態把握、支援の在り方等について検討する。	
2	学校生活	生徒指導	目標	○幼児児童生徒の発達段階に応じた安全教育を推進し、交通安全及び防災・防犯に関わる指導の充実を図り、幼児児童生徒の対応力を高める。
			計画	・各種危機管理マニュアルの見直しを行い、教員への周知を図るとともに幼児児童生徒への安全教育に生かすことができるようにする。 ・避難訓練の実施について、各学部の実態に応じた防災について検討したり、訓練後の反省を生かしたりしながら教員間で共通理解を図り、幼児児童生徒が臨機応変に対応できるように指導・支援をする。
		保健	目標	○幼児児童生徒に熱中症や風邪対策として水分摂取が大切であることを周知し、水分摂取ができるようにする。
			計画	・5月上旬、熱中症対策として水分摂取が大切であることを等を記載したプリントを作成し、各学級での指導を依頼する。 ・「熱中症予防チェックシート」や「水分摂取チェックシート」を作成し、5月から9月まで、各学級での記入を依頼する。 ・5月から9月まで、見える放送を使って、熱中症対策を呼びかけける。 ・5月から9月まで、適宜、熱中症警戒アラートを確認し、幼児児童生徒玄関等に掲示する。 ・7月末の学部集会等で、熱中症対策として水分摂取の必要性を幼児児童生徒に伝える。

				<ul style="list-style-type: none"> ・12月末の学部集会等で、風邪対策として水分摂取が有効であることを幼児児童生徒に伝える。
3	進路支援	進路指導	目標	○生徒、保護者が、進路について必要な情報を持ち、自分に合った進路を選ぶことができるように、情報提供の場を設けたり、情報を発信したりして、進路に対する意識を高める。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・進学先や、就労状況、就業体験等についての情報をホームページや校内掲示により、分かりやすく発信する。 ・生徒自ら進路について考える機会を充実させるために、就業体験の事前・事後学習や報告会を行う。
4	特別活動	特別活動	目標	○「さわやか運動」の取組をとおして、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を養う。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で「さわやか運動」の活動に主体的に取り組むことができるように、生徒会執行部が中心となり立案・実施できるよう支援する。 ・児童が他者とのよりよい関わりにつなげることができるように、児童会のあいさつ運動等の活動を充実させるよう働きかける。
		学校図書館	目標	○図書室の整備や図書室利用の機会の拡充を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・図書管理システムを活用して、蔵書管理の電子化を進める。 ・学校図書館司書の助言を基に、見やすく借りやすい図書の配置を行う。 ・貸出率が向上するよう、図書委員会で本の紹介や本に興味をもってもらえるような活動を企画する。
5	その他	PTA活動 重点2	目標	○ <u>保護者の声を広く集め、ニーズに応じた情報を提供する。</u>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用したアンケートシステムを構築し、様々な機会を通じて学校ホームページに情報提供があることを知らせる。 ・保護者のニーズを把握し、関係分掌等から情報収集し、学校ホームページ等で発信する。<u>その情報がニーズに応じたものだったのか把握し、改善に努める。</u>
		教育相談	目標	○聴覚障害教育に関する情報の発信に努め、関係教職員への理解啓発を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関を訪問し、本校の教育や役割について周知してもらう。 ・定期的な教育相談利用者の在籍校（園）やこども支援センター等と定期的に情報交換を行い、共通理解をしながら支援に当たる。 ・聴覚障害教育に関する講座等を開き、関係教職員の専門性向上を図る。
		研修	目標	○学校課題の共通理解をし、各学部でライフステージに応じたキャリア教育の推進を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題を受けた各学部の研究主題を設定する。 ・各学部で重点を置くキャリア教育の項目について検討し、共通理解する。 ・授業研究や事例研究を行い、1年の成果をまとめ、課題を明らかにする。
		図書・情報	目標	○幼児児童生徒に応じたICT機器の活用を促進する。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部にICT教育推進リーダーを配置し、リーダー間で定期的な研修会を実施して、ICT機器活用のためのスキルアップを図る。 ・ICT機器を活用し、個別最適な学びを目指した授業実践を行う。 ・実践で得た知識やスキルを全体で共有し、活用の幅を広げる。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（中学部） - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が自分の役割に気付き主体的に取り組むための指導・支援の在り方	
現 状	<p>昨年度までの学部研究の取組では、なりたい自分を思い描き、具体的な行動目標を立てて実践したり、振り返りの活動において自分を見つめ直したりする姿勢を育むことができた。一方で、自分の良さや強みに気付いてそれを伸ばそうとする姿、他者とのかかわりの中で自分の学びを継続しようとする姿にはまだ及ばないという課題が挙げられた。そこで、キャリア・パスポートの使用と活用を通して、肯定的な自己理解につながるような教師の言葉掛けや場面設定があれば、自分の役割に気付いて主体的に取り組む、様々な課題にたくましく対応していける生徒を育むことができるのではないかと考えた。</p>	
達成目標	① キャリア・パスポートを用いて、行事をとらえて目標設定や振り返りを行う回数	② 教師の言葉掛けや場面設定について事例検討等を行う回数
	年間4回以上	年間3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が記入しやすいようなキャリア・パスポートになるよう様式や内容について検討する。 行事での事前の目標設定や事後における生徒の自己評価や他者からの評価を通して、自分の頑張りや良さに気付くことができるよう、キャリア・パスポートを書く時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部会研究において、キャリア教育の4領域についてどの場面で支援していくかを明確にし、支援の方法や生徒の変容について共通理解を図る。 キャリア・パスポートを基に、教師間で生徒についての情報を共有するとともに、授業を記録するなどの支援方法について検討する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン（PTA活動） - 2 -		
重点項目	その他	
重点課題	保護者のニーズに応じた情報提供	
現 状	<p>本校は、教育活動に関して学校だよりや分掌からの情報発信を紙媒体や学校ホームページを活用し積極的に行っている。学期ごとの個別懇談や日々の連絡ノート、送迎時の会話等でも保護者の声を聴くことができる。しかしその一方で、様々な年齢段階の幼児児童生徒が在籍していることや、聴覚障害だけでなく知的障害の生徒も在籍するため、保護者のニーズが多岐にわたっている。また、学校ホームページを閲覧していない保護者もいるため、情報が伝わりにくい現状もある。そこで、関係分掌等の担当者が情報提供できるシステムを構築し、様々な情報を発信することで、保護者のニーズに応じた情報を提供することができるのではないかと考えた。</p>	
達成目標	① 保護者のニーズを把握し、情報発信するシステムの構築と周知	② 発信した情報の認知度や満足度を確認する回数
	1学期中の構築・周知	年間3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 図書・情報部と協力し、インターネットを利用したアンケートシステムを構築する。 様々な機会を通して学校ホームページに情報提供があることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズを把握し、関係分掌等から情報収集し、学校ホームページ等で発信する。 発信した情報が周知されたか把握したり、発信した情報がニーズに合ったものであったか意見を集約したりする。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）